20200830レムナント教会1部

**大事な共同体(Ⅱサムエル記8:15-18)**

　神様の願いは、私たちが自分の欲望によって願っているものとは全く違います。神様はたとえ私たちの欲望による肉の願いを砕いてでも福音をもって救われること、そこに神様のすべての願いがあります。その神様の願いを正しく理解した信者であれば教会がどれほど大事なものなのか、そのことを正しく理解して教会を愛して教会に仕え献身の道を歩むことになるでしょう。その結果、来る世々において、その人、またその子孫に神様の祝福が現れるようになります。ダビデは神殿の奥義について聞かされることになります。神殿を立てること、それはダビデの願い以前に神様の願いでした。つまり、神様は人をキリストによって地獄と罪から救われるとおっしゃったわけです。その神の願いを聞かされたダビデは、それをしっかりと悟って、行く先々において神様が勝利を与えられたということを体験します。つまり、神の願いに対して、勝利を通して証拠を得るようになったということでしょう。それを通して今までもわかっていましたけれども、今イスラエルという国が神の契約の民であり、神の願いのために召されている契約の共同体なんだということを改めて考えさせられるようになります。このイスラエルの共同体がどれほど大事なものなのか、神の願いを全うしていくために神の契約を成し遂げられるために召されたものなのだということに気づくようになるわけです。そこでダビデは様々な勝利の後、イスラエルの内部の組織を強化することになります。これから神の願いを全うしていくために霊的な戦いをしていかなくてはならないからです。

　それで今日の聖書の箇所には、イスラエルで先に悟っていた、神様によって先に成長することができた人々を適材適所で配置することができたということが詳細に記されています。誰かは軍団長、あるいは祭司、様々な必要なところに人々を立てていくことになります。これには、その人が人より偉いからという階級的な意味は全くありません。イスラエルの民がすべて大事な存在で共同体なので、神の契約のために召されているので、先に悟っている人々が神に仕えるために、その人々ひとりひとりを大事に使っていくため、そういう意味で役職が与えられて立てていくことになったのです。改めて今日礼拝をささげている皆さん、教会という共同体それがどれほど大事なものかということを考えていきたいと願います。教会はただの団体ではありません。ただの集いではありません。教会は神様の聖なる目標の上に建てられたものです。つまり、世の中には様々な団体があって、そこには様々な世界を維持するための理由があります、しかし教会という共同体は、その理由とは全く異なる神の理由があって集められたところです。そのことを考えたときに、教会がどれほど大事なものなのかに気づくようになるでしょう。神の願いが何かをまず分かっていないと、教会がどれだけ大事かを分かることができません。この教会という共同体は世にある団体ではできないことのために召されているものです。世の中には国民の生活のために行政を担う役所というものがあります。それは非常に必要な大事なことに違いありません。しかし教会はそのようなことのためにあるわけではありません。また子どもたちのために学校があるし、病んでる人を治療するための病院もあります。ときにはNGOなどの団体を通して、人々の福祉のために活動している団体もあります。また、文化の様々な団体、芸術の団体を通して、人の感性を豊かにするための仕事もしています。世の中には、この世を維持していくために必要を満たすために許されている団体・機関があります。これは間違いなく必要なものであります。しかし、クリスチャンの私たちが忘れてはいけないのは、必要なこととそれが人間のまことの幸せにつながるかどうかは別の話なのです。どんなに学校で教育をして、また苦労しながら行政を全うしている役所があるにしても、人間の本当の幸せをもたらすこととは全く関係ありません。そして、このような奉仕、様々な仕事は非常にありがたいことに間違いありませんが、限界があるということも忘れてはいけません。教会という共同体は、そのような仕事のために立てられているものではありません。それとは全く違う理由、そういう団体ではやることのできない、人間に絶対必要ないのちを得させることのために、いのちの仕事のために教会は召されているものです。

　人間に必要ないのちというものは一体、何でしょうか。呼吸をして、息があるかどうか、そういう次元の話ではありません。人は神のかたちに造られて、たましいのある存在、神様と疎通できる、交わることができる、そこにすべてがかかっている存在なのです。それなのに罪によってそのたましいが死んでしまいました。その結果、神様を離れて、サタンの奴隷になってしまい、残念ながら悪魔、サタンを自分の父として拝むしかない存在になってしまいました。その結果、罪と地獄、のろいの運命に捕らわれて、一歩もそこから出られない存在になってしまいました。誰がでしょうか。すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができないのです。特別な人間がいるわけではありません。特別な悪い人間がいて、また善良な人間がいるわけではありません。それは人の評価であり、神様がご覧になったときには、また霊的な目で見たときには全く違います。ですから、行政があり、教育があり、芸術があり、福祉があるにしても、この死んでいるたましいを生かすことはできません。悪魔の奴隷、地獄の運命から人を助けることはできません。皆がこのいのちの祝福が何か分かっていません。まじめに努力すればどうにか変わるだろうと思いますが、まじめに努力してもいのちとは関係ありません。金持ちになることは良いことでしょうけれども、どんなに金持ちになってもいのちとは一ミリとも関係ありません。成功することはうれしいことでしょうけれども、どんなに成功を収めてもいのちには一ミリも近づくことはできないわけです。なので人々は、得られない答えを求めつつ、一生さまよい続けるしかありません。結局、答えなどありません。不可能なことなので、最終的には重荷を背負って疲れるようになるしかないし、たましいが精神的に、肉体的に病を抱えて、死んでいくしかないのです。この死んでいるたましいが生かされて、悪魔の奴隷から解放される、地獄の運命から助かる、それをいのちと言います。それで神様とまた一緒になること、そのいのちが得られる唯一の答えはキリストのほかにはありません。キリストは死んでいるたましいにいのちが与えられ、神様と一緒になるための道、まことの預言者を意味します。キリストは悪魔の奴隷から解放されるために、悪魔の頭を踏み砕いて勝利なさったまことの王様です。キリストは人間の罪と地獄ののろいをすべてきよめられ、なくしてしまう、まことの祭司という方です。キリストのほかにはいのちが得られる道、人生の希望などはどこにもありません。唯一の答えはイエス・キリストのほかにはありません。教会は唯一の答え、いのちの祝福であるキリストを所有しているところであるし、そのキリストを味わい豊かになり、このキリストをもって答えを与えるところです。そして、そこにのみ罪とのろいから解放されて救われる唯一の希望、祝福があるということを忘れないでください。神様の願いは人が救われることです。それより大切なことはありません。その神の願いのために召されているところが教会です。教会のほかに唯一の答えであるキリストを所有しているところはありません。役所は汗をかいて頑張ってありがたいのですが、そこにキリストはありません。病院にも国会にもありません。福祉団体にもありません。多くの教会が教会とほかの団体との区別がつかないまま、こんがらがってしまう場合がありますが、そうすると教会がどれほど大事なのかを理解することができません。教会は神様の聖なる目標のために建てられているものです。なので教会は何より大事な集いということを覚えていてください。

　そのために教会というところは、いろいろな人が集まっているのですが、実は聖なる人たちの集いなのです。だから、教会は大事なのです。それが分かっていたダビデは、その聖なる集い、大事な教会が、教会としての機能を全うしていくために、いろいろな役職をもって人と組織を強化していたわけです。それが組織の意味です。教会に牧師があり、長老があり、様々な役割が許されているということは偉いからではありません。仕えるためなのです。教会の目的を全うしていくためです。教会を正しく理解しないと、教会生活を通して神様の豊かな答えが備えられているのにもかかわらず、それをすべてのがしてしまい、逆に教会でつまずく場合があります。なんと言語道断なのでしょうか。ありうることでしょうけれども、私たちはそこに引っかかってはいけません。教会は大事な共同体なのです。教会は聖なる人たちの集いなのです。イエス様が最後の晩餐の時に、ヨハネ13：10、弟子たちに向かっておっしゃっていました。あなたがたは、もう全身きよいのだと。キリスト・イエスの血潮によって、全身きよめられて、神の前に大胆に立つことができるほどきよめられて、そのきよい人間たちが集まっているところが教会なのです。人間の目で見たときには、いろいろな評価、判断があるでしょうけれども、教会はそれによって評価されるところではありません。イエス・キリストの血潮によって全身きよい者なのです。自分の過去や自分の弱さ、自分の過ちに捕らわれて、後ろめたさ、罪責感などに捕らわれて自分はダメなんだという思いを持っていることは、イエス・キリストの十字架を馬鹿にすだけなのです。そこは「サタンよ、去れ」と叫ばないといけません。自分自身に対して暗い思い、否定的な思いを持たせるものは100％サタンです。どんなことがあろうが光の中にしっかり立っていないといけません。教会は聖なる人たちの集いなのです。パウロも言いました。Ⅰコリント7：23「あなたがたは、代価をもって買われたのです。人間の奴隷となってはいけません」。イエス・キリストを代価として払われて買い取られたほどの高価なものであり、大切な大事な聖なる存在の集いが教会です。外見によって、見た目によって惑わされて騙されていてはいけません。それが教会なのです。教会はガラテヤ2：20にあるように、滅びるしかない人間は十字架とともにつけられ、今はキリストが内側に生きている存在の集いです。ですから、古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなりました。自分のことを自分勝手に思うこと、それは100％マイナスです。それは100％偽りです。キリストがいらっしゃるから、過去の痕跡が残っていて、肉体的な様々な弱さがそのままであっても全くきよいものであり、新しく造り変えられたものであり、まったく新しい存在だと自分自身に、脳細胞にずっと言い聞かせないといけません。それを祈りと言います。言い聞かせるために、みことばを聞かないといけないのです。サタンはささやくわけです。「おまえはダメだ。おまえは大変だろう。これからどうなるのだろう。この大変な世の中をお前は生きていけるのか。不安で不安でしょうがないでしょう。大学落ちたらどうする」など、いろいろささやくわけです。「サタンよ、去れ」。「おまえは昔、お母さんにこういう風にやられただろう。大変な親のものとで苦労したでしょう。お前はそんな人間なんだよ」「昔、泥棒をして刑務所に行ったことがあるだろう」とささやくわけです。「サタンよ、去れ。イエスはキリスト。全身きよい」。特別な人を指して語ったわけではなく、イエスを信じているすべての信者に向かって、「あなたがたは、聖霊が宿っている神の神殿であることが分かっていないのか」とおっしゃいました。そういう人々が集まっているところ教会と言います。ローマ8：29-30「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです」。イエス・キリストを信じることによって、皆さんはもはや過去の皆さんではありません。人に評価される皆さんではありません。イエスのかたちに造り変えられて、イエス様が長男であり、皆さんが次男、次女なのです。そのような人々が集うところを教会と言います。レムナント、小さい子どもたち、あるいは弱い信徒や様々なカラーがありますが、それを見て勝手に判断してはいけません。皆さんのレベルで判断してはいけません。聖なる人たちの集いなのです。だから、ルカ10：19には、蛇とさそりを踏みつける権威が与えられ、へブル1：14では、天使が私たち救われた信者、教会に仕えるために存在するのだとあります。そのような存在です。どこかの社長にそのような権限があるでしょうか。大学教授にそれがあるでしょうか。これをすべてまとめて、今貧乏でも病気を抱えていても頭が悪くても気にしないでください。教会というところは聖なる人の集まりなので、天にある霊的すべての祝福をすでにいただいている者の集いが教会です。表ばかり見て、いまの瞬間だけを見て、勝手に指を指したり判断したりしてはいけません。聖書はそれを一番警戒しています。さばいてはいけませんと。

　ですから、この世において世の光、王である祭司という名称が与えられるわけです。そのような人々が集っているところを教会と言います。だから、教会は大事なところなのです。今のレベルや今起きている様々な現象などがすべてであるかのように思っていては、それはもう信仰ではありません。信仰は目に見えない事柄の保証でありと言うでしょう。今ふらふらしているレムナントのように見えていても、神様はその人の人生すべての計画をもって召されたので、それをあらかじめ前もって見て扱わないといけません。聖なる人たちの集いなのです。だから、教会は愛をもってしもべとしての姿勢をもって仕えるところです。仕えるというのは大事な存在で、大事なところだということに気づいたということです。大事なので大事に扱おうではないかということを仕えると言います。教会は、神の聖なる目標の上に召されて、聖なるとても貴重な人たちの集いであるのにもかかわらず、外見は多様な人が集まるところです。人種も多様だし、性格も年齢も社会的な地位も様々な多様な人が集まるところで、レベルもまた多様なのです。そして、ひとりひとりに対しての時刻表というのも多様です。皆一緒のユニフォームを着ているかのような扱いは無理なのです。教会は多様な人が集まり、多様な時刻表があり、多様な水準、レベルがあります。そのように多様な人々が、みな同じ神様の聖なる目標、つまり、神様の願いのために生きる者になるように、これが仕えることです。その目標をもって、そのために大切なのは、ひとりひとりは様々な違いがあり、いろいろなレベルがあるのにもかかわらず、自分がそれにふさわしい、またそのために召されている聖なる幸せな貴重な存在だということを知ることができるようにすること、これが教会の役割です。そうなるように奉仕すること、それを仕えると言います。教会ではそれ以外には何もいりません。時にはそれが重職者として、牧師として、教会学校の教師を通して、ご飯を作ることを通して、様々な役割を通してなされます。しかし、目標は、神の聖なる目標は福音宣教だと正しく分かって、そこに方向を合わせるように、それが十分可能な祝福された聖なる存在なのだよということを知ってもらうために祈りつつ、忍耐をもって助けることです。助ける一番大切なポイントは、みことばがその人に流れて入っていくようにということです。祈りつつ愛をもって、忍耐をもって、みことばをもって奉仕していく、これが先に悟っている人々の役割です。先に悟っているから何か職が与えられたときに、ほかの人より偉いかのように思うことは勘違い中の勘違いです。むしろ一番ダメなので先に立てられるかもしれません。今現在、自分が悟ったことより、そうでないかのように見えて、今地面を這うような信徒であっても、神の聖なる目標のために召されて、それを全うできる聖なる貴重な存在であるという目で見て、それに気づいてもらうために祈りつつ、時刻表を待ちながら、何よりみことばが流れるように奉仕していくことのためにいろいろな役が与えられているということを覚えていてください。

　ダビデは、今日、誰かを軍隊の長として、誰かは祭司として、誰かは書記として、様々な役割の人を立てました。何のためでしょうか。イスラエルの共同体を大事に扱い、共同体に仕えるためにです。それが教会の組織という意味です。ここを理解できていない場合は、無教会主義の方に走る危険性があります。また組織をこのような意味合いをもって考えていないと、カトリックのようになってしまう場合もあります。教会はそういうところではありません。無教会でもないし、組織そのものが何かの意味を持つわけでもありません。仕えるために、神様の聖なる目標のために。ですから、信徒の皆さんもそういう意味合いをもって、まず自分がどれほど大事な存在であれば、教会に牧師が存在するのかという目で見て、何かの職がある人のために、牧師のために、長老さんのために、教師のために、奉仕者のために祈らないといけません。また、奉仕する人々は、大事な存在だと思い奉仕をしないといけません。これが教会です。教会生活の一番大事なキーワードは、大事です。大事なものを大事に扱いましょう。大事だということが分かっていないと、そのあとの話がすべて道徳に聞こえるだけでしょう。倫理のように、あるいは何かの律法のように聞こえるしかないのではないでしょうか。教会がどれほど大事な神の願いのために召されている共同体なのかということを理解して、人間的な肉の評価によって惑わされることなく、キリスト・イエスの心構えをみな持つことを祈りたいと思います。そのために皆さんが信徒同士で機会が許された場合には、必ずフォーラムをするようにしましょう。237カ国に伝道種族の宣教のために教会は存在しているし、日本の47都道府県、空いているところに教会を開拓することのために、一千の大学に大学のミッションホームと担当の長老を派遣すること、こういったすべてのためにRUTCといやしのセンター、神学校などが必要なのです。この契約の中でみことばが流れることによってひとりひとりが自分のCVDIPをしっかり見つけることができるように。「CVDIP、難しいな」という人も結構いるでしょうけれども、それでもCVDIPの契約のメッセージが与えられたということは、何がまず大前提なのかというと、ひとりひとりが大事な存在だということが大前提なのです。だから、大事な人生を生きてもらおうではないか、それがCVDIPです。自分がどれほど大事な存在なのかをわかっていないと、教会が、兄弟姉妹がどれほど大事な存在なのか。みなが237カ国の世界宣教、47都道府県の教会開拓、一千大学の福音化、RUTCのために召されている存在なのです。ひとりひとりがそのために自分の現場で神の国を体験し、いやしのあかし人として、そして、レムナントをサミットとして立てていく教会で奉仕する目標のために召されている存在です。今は気づいていないでしょうけれども、今は逆に不信仰の中でアップアップしているかもしれませんけれども、その目で見ないといけません。それが教会です。

　このような教会に対しての正しい理解によって、教会がどれほど大事な共同体なのかという契約を握って、教会に仕える人、特にみことばが自分自身に流れて、そのみことばが正しく流れていくようにしましょう。それでメッセージカードも短くしましたが、もっと短くして一つの文章にしようとします。それが牧師が今日30分ぐらいの説教の中で言いたいことなのです。皆さんもできれば日曜日の講壇のメッセージ聞いて、一つの文章にまとめるようにしてみてください。それがなかなか難しい場合は、牧師がまとめた内容をしっかりそのまま受け入れて、それを一週間ずっと自分自身に、ほかの人に、すべてにそれを当てはめて適用してみてください。メッセージがメッセージになって流れるためには、一つの文章にまとめることが非常に大切な意味を持ちます。もちろん人によって30分以上のメッセージの中で、一つの単語が刺さる場合もあります。それを握ればいいです。しかし、大体の場合は、一つの文章にまとめるのが契約として非常に大切です。なぜなのでしょうか。みことばが流れていかないといけないわけですから。ぜひ教会がどれほど大事な共同体なのかという理解をもって、教会に仕える人として残りの生涯を勝利していただきたいと思うし、そのためにみことばの流れにしっかり乗る信者になってもらいたいと願います。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。ありがとうございます。今日も暑い中で、またコロナ渦で兄弟姉妹を集めてくださり、この集いが、この教会がどういう意味を持ち、どのような共同体なのかを教えてくださりありがとうございます。どうか神の願いを基準にして、教会を正しく見て仕える者になり、教会生活に勝利することによって福音宣教という神の聖なる目標に一緒に乗っていけるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。